

17年の活動支えた亡き母にささぐ

カンボジアに小学校建設

カンボジアの支援活動を続けている山元町坂元の曹洞宗「徳本寺」住職、早坂文明さん(五八)が、亡き母をしのんで現地に小学校を建設した。昨年末に完成した真新しい学校は、早坂さんの母、故静枝さんの名前を取って「 Dopp・トノット・シズエ小学校」と名付けられた。

早坂さんは十七年前から「母は、六十年近く寺を守り続け、カンボジアの学校は昨年十一月に完成。平ちに絵本や小学校建設費を援助活動も支えてくれた。そ、屋建てで、五つの教室と井

山元・徳本寺の早坂さん

「素直な心育てて」

贈る活動をしてきた。二〇〇七年二月には、曹洞宗東北管区教化センターの設立三十周年事業としてカンボジアに移動物書館車を贈るため、統監を務める早坂さんが現地を訪れた。

静枝さんはそのさなかに血栓症で倒れ、危篤状態になった。早坂さんは急いで帰国したものの、静枝さんの意識は戻らず、七十九歳で帰らぬ人となった。

静枝さんはそのさなかに血栓症で倒れ、危篤状態になった。早坂さんは急いで帰国したものの、静枝さんの意識は戻らず、七十九歳で帰らぬ人となった。

ように素直な心で生きることの大切さを教えてくれた。シズエ小学校で学ぶ約二百人の子どもたちを前に、こうあいさつした。

「この学校で学ぶみなさんも、その素直な心を育て、わたしは、そよ風にも風にも逆らわず、自然のままそよぐ、静かな枝のす」



の恩を、大好きなカンボジアの子どもたちに向けた形で、返したい」

そんな思いが募った早坂さんは、長年かかわってきた国際ボランティア団体と相談し、学校がなく、識字率も低いカンボジア北部のDopp・トノット村に、小学校を建てることを決めた。現地の教育局へ、母の遺産や香典から工面した建設費五百万円を贈った。

亡き母の名が付いたシズエ小学校に立つ早坂さん。昨年12月、カンボジアのDopp・トノット村